

経管栄養から経口摂取への移行事例

社会福祉法人 幸清会 介護老人保健施設 プライムヘルシータウン湘南(伊達市)
介護福祉士 鈴木 雅美、三戸部 真由美

【はじめに】 高齢化と共に脳卒中の後遺症や認知症により嚥下困難となり、安全に栄養補給する方法として胃瘻が造設され、経管栄養となっている例が増加している。胃瘻造設された方でも口から食べるという喜びは、QOL向上の面から非常に重要である。しかし実際はなかなか経口へ移行できないのが現実である。

そこで今回、入所時は経管栄養であった入所者様が経口摂取へ移行し、さらに QOL の向上に繋がった例を報告する。

【対象】 T 様(83 歳、男性)

平成 14 年に脳血管性認知症、症候性てんかんを発症療養目的で入院した病院で嚥下困難、熱発を繰り返し、平成 20 年胃瘻造設となり、造設後も経口摂取は行わず経管栄養となる。造設から 5 ヶ月後、リハビリ目的にて当施設入所となる。声かけに発語は無く、頷きで意思表示あり。筆談にて臥床希望や尿意・便意の訴えあり。

【経過】

入所してすぐに、身振りや筆談にて「アイスが食べたい」と経口からの摂取を意思されていた。しかし、すぐには経口摂取ができないことをお伝えすると、職員の顔目掛けてパンチする仕草を見せる等、経口摂取には非常に強い希望が感じ取れた。PEG にも違和感があるようで、栄養剤の注入中に管を外してしまうことが何度かあった。

そこで入所二週間目で、管理栄養士の協力のもと少しずつ経口摂取開始となる。まず試みとして、粥一口・ミキサー副食二口ずつ・コーヒー寒天ゼリー 200 cc を介助にて摂取してもらった。するといずれもムセることなく、飲み込みも良好で口を大きく開け次々と食事を要求された。そこでその後は、経管からは経腸栄養剤摂取、経口からは昼に寒天ゼリーや御家族様からの差し入れられるプリン等を見守りにて少量ずつの栄養摂取となる。しかし、一気に摂取してしまい、誤嚥の危険があるため声かけを行い、ペースを調整する必要があった。

入所一ヶ月目に、筆談にて「3 食口から食べたい」と要求があり、嚥下良好の為、常食ミキサー食、粥ミキサー 3 食経口摂取を開始する。ムセは無く嚥下も良好で、介助にて全量摂取される。水分は寒天ゼリーで摂取し、その他お茶や味噌汁等には増粘剤を使用し、誤嚥による肺炎の予防策とした。手を伸ばし自力でかき込むように食べてしまった時だけはムセてしまったが、きちんと飲み込んでから食べるように声をかけることで上手に摂取することが出来た。御家族様へ経口摂取となった旨を報告すると、「こんなに早く口から食べられるようになるなんて…」

と大変喜ばれる。

入所二ヶ月目で、ミキサー食の摂取が問題なく進んでいる為、全粥 1/2 量へと変更し、全粥の摂取が開始となる。食事のペースは速かったものの、飲み込み良くムセも見られず安定した摂取となる。水分の摂取に関してもこれまでの経過から嚥下状態の悪化が無いと判断され、寒天ゼリーを中止し増粘剤を入れたお茶(300 cc のお茶に大スプーン 1 杯程度)を提供することとなった。

入所三ヶ月目に、定期採血の結果アルブミン値が下がっていることがわかり、医師より食事の摂取カロリーを UP させるよう指示があり、主食の量を 1/2 量から普通量へと変更になり、全量摂取でき嚥下状態も問題なく経過された。その後三ヶ月、順調に経口摂取され、嚥下状態も安定される。

経口摂取が可能となったため、T 様と御家族様の希望により自宅へ外泊できるようになり、御家族様とのコミュニケーションを図ることができ、大変喜ばれる。経口摂取が可能になったことに加え、夜間テーブル式オムツ使用していたのが、ポータブルトイレでの排泄となり、日中は車椅子を撤去し遠隔見守り歩行となる等、身体的にも自立した生活を送れるようになり、メモに「カイテキ(快適)」と書いてくれることもあり、QOL の向上に繋がったと思われる。

【考察】 入所者様の体調にあわせ食べ物の種類や介助方法を探り、記録してきた。一般的には経管栄養の方が経口摂取に移行できる割合は決して多くない。今回は T 様自身の「食べたい」という強い意思が、身振りや筆談によって御家族様や他職種の職員に伝わり、経口摂取へと移行できたのだと思われる。また、御家族様に T 様の好きな物を差し入れしてもらったり、自宅への外泊等にご協力をしていただいたことが、T 様の ADL の向上、QOL の向上、コミュニケーションの充実等に繋がり、T 様自身も大変満足された結果となった。

また、現在当施設には ST が不在の為、医師をはじめ看護師、管理栄養士、介護士間で、食事介助方法の検討を重ねカンファレンスを実施し、安全な経口摂取が出来るよう毎食前に嚥下体操を行う等して、経口摂取移行に取り組んできた。

T 様はその後てんかん発作を起こし、一時入院となったが、状態安定し当施設へ再入所した。再入所後も安定した経口摂取を継続されている。

今後も入所者様の「食べたい」というニーズに対応し、その人らしい当たり前の生活ができるようなケアを行っていきたい。